人権だより　第2号

熊本県立球磨支援学校
平成30年12月21日発行

きらり

２学期は、各学部の人権学習に加え全国の人権週間（１２月４日～１０日）に合わせて、児童生徒、そして教師も人権についての取組を行いました。本号では、人権週間の取り組み、中学部の２学期の人権学習の様子、本校職員が参加した人権に関する研修についてお伝えします。

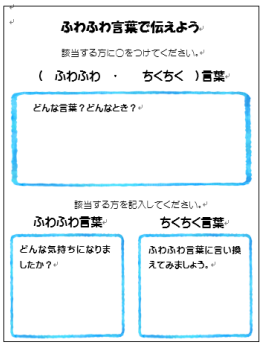
人権週間の取組

《児童生徒の取組》

年度始めに、「心の絆を深める５か条」の４か条までを児童生徒会が発表し、５か条目は各学部で話し合って決めました。各学部の５か条目は、小学部「笑顔で『ありがとう』を言おう」、中学部「ちゃんと言おう『ありがとう』と『ごめんなさい』」、高等部「一人一人の個性を認め合おう」でした。今回の人権週間では、「絆を深める５か条の木」を各学部に用意し、小中学部は「ありがとう」や「ごめんなさい」を言うことができたらりんごやハート型のカードを貼り、高等部は友達のどんな個性を認めることができたかをりんご型のカードに書いて貼るようにしました。小学部は、何か友達にしてもらったときは率先して感謝の気持ちを伝える姿が見られました。笑顔で「ありがとう」と伝えることができ、言われた児童も自然と笑顔になっていました。中学部は、感謝だけでなく謝罪も意識して友達へ伝えることができ、たくさんのりんごを貼ることができました。高等部は、「おしゃべりな自分だが、相手の様子を見て声をかけることができる」、「相手と話を合わせることができる」といった、自分のことだけでなく相手の様子や表情、興味関心等の個性に応じてかかわることができたことを自ら進んで記入することができました。

《教師の取組》

夏期休業中に児童生徒理解研修を実施し、「ふわふわ言葉（優しい言葉遣い）」と「ちくちく言葉（きつい、厳しい言葉遣い）」について職員間で考えました。人権週間は、「あのときの自分の言葉遣いは、ふわふわ？ちくちく？」と児童生徒に対する日頃の自分自身の言葉遣いを振り返り、用紙に記入して全職員で共有するようにしました。ちくちく言葉については、どのような言い方をすれば良かったのか、改めて自分たちの言葉遣いを見直しました。「木は光を浴びて育つ、人は言葉を浴びて育つ」ことを一人一人がしっかりと心がけ、指導支援に当たっていきたいと思います。



ふわふわ言葉で伝えよう

該当する方に○をつけてください。

（　ふわふわ　・　ちくちく　）言葉

どんな言葉？どんなとき？

該当する方を記入してください。

ふわふわ言葉　　ちくちく言葉

どんな気持ちになりましたか？

ふわふわ言葉に言い換えてみましょう。

中学部人権学習　「水俣病について　知ろう、　考えよう」

中学部の生徒は、昨年度の社会で水俣病の原因や現在の水俣の様子等について学習し、さらに水俣病センターから講師の方の講話を聞きました。今回の人権学習では、昨年学んだことを思い出しながら、「水俣病による差別」について考えました。

以前、水俣の中学生がサッカーの練習試合をした際に相手校の生徒から「水俣病、触るな！」と言われたことが書かれた新聞記事を見て、「なぜそんなことを言ったのか」、「言われた人はどんな気持ちになったか」を、グループごとに話し合いを行いました。「水俣病がどんな病気か、知らないから。」、「言われた方は、そんなこと言わないでよ、とか、悲しいなと思っているんじゃないかな。」と、様々な意見が生徒たちから聞かれました。さらに、自分たちが「水俣病、触るな！」と言われたときにどのように対応するか、ロールプレイングに挑戦しました。友達に言われると、考え込む生徒もいれば、自分の思いを相手にはっきり伝えることができた生徒もいました。

今回の学習で、①水俣病について正しい知識を持つこと、②水俣病への差別、偏見をする人がいたら「違う」と言うこと、この２つが大切であることを生徒たちに伝えました。今後、人権学習をきっかけに世の中にある様々な差別に対して関心を持ち、「おかしいな」、「どうしたらいいのかな」と考えてほしいと思います。

「研修報告」

人権教育研究指定校研究発表会に参加して　2018.11.6（火）

高等部職員　田上　和

１１月６日に多良木町立多良木小学校で行われた研究発表会に参加しました。研究テーマを「自分とともに他人のよさも認め、大切にし合う多良木っ子の育成～かかわり合いを大切にした活動を通して～」と設定して研究に取り組まれていました。

授業ではグループ活動のときに「全員がしっかり考えて話し合う」ことが当たり前にできるように「同じ」「ちがう」「似ている」等の話し合いカードを活用されていました。自分の考えと友達の考えを比較しながら話し合いを進め、自己選択・自己決定の場を取り入れて授業を進められていました。午後の分科会では「部落差別は地区の人だけでなく、地区以外の人の課題でもある」「差別は一人で解決できない」「差別の１つの原因は相手を知らないこと」等の意見が参加者から活発に飛び交いました。

研究発表会を通して、私は「意見が対立したときに相手に対する差別的意識を抱きやすい」という言葉がとても印象に残っています。同じ物事に対しても人によって感じ方は違います。自分とは違う考えに対して「こういう考え方もあるんだ！」「これいいね！」と認め合える関係を築き、相手のことをもっと知るように意識して過ごしていこうと強く思いました。